

27. 庄内こどもの杜幼稚園への「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成28年（2016年）6月11日（土）13時～

○場 所：庄内神社社務所 2階ホール

質問・意見等	豊中市からの回答
構想案2の4-5制は、他市であるのか。	施設併用型で4-5制の学校は、東京都足立区に2校、大分市に1校あります。なぜ4-5制かという、子どもの早熟化への対応や、小学校高学年から中学校生活に馴染ませることで中一ギャップを緩和するというねらいがあります。一方で、小学4年生までと5、6年生について、物理的に離れている環境下でどのようなつなげていくか、行事等の工夫が必要と考えています。
構想案1の小中一貫校を3校つくることは考えていないのか。	現在、中学校は庄内地域に3校ありますが、特に第十中学校は生徒数234人、各学年2クラスしかない小規模校です。今後、さらに小規模化が進むことから、小中一貫校3校にすれば、中学校の規模が確保できないと考え、案1（施設一体型小中一貫校2校）になりました。
島田校区の端の方に住んでいるが、私の子どもの場合、島田小、野田小、庄内小と3ヶ所通わすことになる。野田小や庄内小まで通わせるのは距離が長くなり、低学年の子どもたちは学校に行くだけでへとへとに疲れてしまう。その点はどうか考えているのか。	通学距離が延びることについてはどうしようもありません。よくスクールバスを出してほしいというご意見をいただきますが、現時点でスクールバスは想定していません。能勢町のささゆり学園の場合、スクールバスの基準は3kmと定められています。また、まちづくりや地域活性化の観点からコミュニティバスを巡回させ、登下校に利用すればよいといったご意見もいただきました。このご意見については持ち帰らせていただき、検討しているところです。距離以外で検討できることは2点あります。1点目は仮開校のスケジュール検討です。3ヶ所に通わせることを避けるため、仮開校で野田小に集めるのではなく、ギリギリまで島田小学校を存続させる、あるいは島田小の校舎を利用することも検討すべきと考えています。もう1点は、通学の安全確保であり、道路整備や通学路の検討を、教育委員会だけでなく、都市基盤部や警察などと連携して進めていきたいと考えています。
説明にあった(仮称)南部コラボセンターとはどのような施設か。	（仮称）南部コラボセンターは市民協働部南部地域連携センター、庄内公民館が所管していますが、庄内出張所の手続き関係、庄内公民館、庄内図書館、子育て支援センターといった施設機能が集約され、さまざまな行政サービスがワンストップで提供される施設になるものと考えています。
放課後こどもクラブはどうなるのか。	放課後こどもクラブはこども未来部の所管ですが、新しい学校になったとしても放課後こどもクラブは存続します。構想案1の場合は、校舎内あるいは敷地内に、案2の場合は1年生から4年生までの校舎の方に設置することになると思われます。

<p>例えば、案1の場合、近くの学校、例えば南校の場合、庄内南小や庄内西小に放課後こどもクラブを開設することは考えていないのか。</p>	<p>現時点で特段の検討はしていませんが、おそらく放課後こどもクラブは学校敷地内での設置になると思います。跡地利用の検討もされていますが、仮に跡地を使用できたとしても、そこまで誰が子どもたちを誘導するのかなど、検討すべきことが多くあります。</p>
<p>南北校とも3校分が一緒になるわけだから、人数も多くなり、教室数もそれなりに必要だと思う。構想案1の場合、場所がないから、放課後こどもクラブの定員は何名まで、どのように制限されるのではないか。</p>	<p>放課後こどもクラブの人数が何人になるなどのデータは持ち合わせていません。確かに案1の場合、敷地面積等の制約があるため、厳しい面もありますが、収容人数によって制限をかけるようなことはないと考えています。</p>
<p>今回の学校再編等の資料等はホームページに掲載されているか。</p>	<p>市ホームページに「南部地区の学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた取り組み」を掲載していますが、分かりにくいかもしれません。もう少し工夫し、わかりやすく紹介したいと考えています。</p>
<p>場所によって学校を選択できるようにしてもらえないか。</p>	<p>実は、稲津町1～3丁目は市内唯一の調整区域ですが、今回の学校再編によって解消したいと考えています。同じ地域に暮らしながら、通学する学校が異なり、地域コミュニティや教育コミュニティ形成の観点から望ましくないと考えています。</p>
<p>小中一貫教育ではなく、小学校同士、中学校同士の統合でよかったのではないか。</p>	<p>規模だけの課題であればそれで解決できるかもしれませんが、庄内地域には厳しい状況にある家庭、子どもが多いこともあり、このような課題を解消する方策として、小中一貫教育が良いと考え、今回ご提案しています。小学校と中学校の教職員が子どもたちの9年間の学びや育ちを支援する、例えば、授業をもたなくても、声掛けするだけでも子どもたち、保護者は安心します。また、教え方や接し方も、小・中教職員が交流することで、お互いのよいところを学び合うことができ、教職員の質的向上につながります。こうした好循環の中で、学力課題や生活課題が解消されていくものと考えています。</p>